第２学年２組　音楽科学習指導案

指 導 者　千代島なつき
展開場所　第２音楽室

１　題材名　　多声音楽の魅力　　２時間扱い
教材名　　「小フーガ　ト短調」　J.S.バッハ作曲

２　題材について

（１）題材観

学習指導要領とのかかわり 第２学年及び第３学年 Ｂ　鑑賞（１）ア　音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して聴き，根拠をもって批評するなどして，音楽のよさや美しさを味わうこと。 イ　音楽の特徴をその背景となる文化･歴史や他の芸術と関連付けて理解して，鑑賞すること。 〔共通事項〕ア　テクスチュア　旋律　形式　構成 イ　調　和音

生徒が仲間と合唱するとき，その耳ではどのような「音」がとらえられているのだろうか。自分の声だけが聞こえているのだろうか。それとも，同じ声部や他の声部の仲間の声，そして全体の響きまでも聞き取れているのだろうか。

合唱表現の楽しさは，自分の声が同じ声部の仲間と「合う」ことだけではない。他の声部との関係性を理解したり，全体のハーモニーの美しさを感じ取ったりすることで，それはより一層深まる。歌いながら，全体の響きに耳を傾け，そこで繰り広げられている音の変化を聴き取ることができたら，歌い合わせる喜びはさらに高まることであろう。

合唱の「全体の響き」には様々な形がある。全体で一つの壮大な和音を奏でることもあれば，各声部がそれぞれ独立した動きをすることもある。生徒は，今までの学習経験から，和声的な音楽と多声的な音楽について，その響きの違いを感覚的に感じとることはできる。しかし，今回，多声的な音楽に焦点をしぼって鑑賞することで，独立した各声部がからみあってできている音楽が存在することを知り，テクスチュアの違いから感受できる効果を理解できるようにしたい。そうすれば，今後，声部同士の関係性について考えながら音楽を聴いたり，それぞれの声部の役割を理解して演奏したり，声部同士の音量や歌い方に留意して表現を工夫したりすることにつながり，音楽活動に生徒がより意欲的に取り組めるきっかけになると考える。

このように，生徒が，テクスチュアの違いがもたらす音の響きの違いを知覚し，和声的な音楽と多声的な音楽のそれぞれによさやおもしろさがあることを理解して，音楽をより深く表現したり鑑賞したりすることにつなげていきたいと考え，本題材を決定した。

尚，多声的な音楽を鑑賞することに併せ，西洋音楽史において多声的な音楽を代表する形式であるフーガや，そのような作品が多くつくられた時代の作曲家バッハ，それを演奏するのにふさわしいと考えられた楽器パイプオルガンなどの知識についても学習し，多声的な音楽が発展してきた時代的背景についても理解を深めたいと考える。

（２）指導観

多声的なテクスチュアをもつ音楽の魅力を理解するにあたっては，多声的な音楽の中で最も完成された形式と称されるフーガを鑑賞教材として選択したいと考える。中でもヨハン・セバスチャン・バッハが作曲した「小フーガ　ト短調」は，楽曲が比較的短い上に，主題の旋律が大変親しみやすく知

覚しやすいと考えられるため，多声的な音楽を学習するのに最適な教材であるといえる。

「小フーガ　ト短調」はパイプオルガンのために作曲された四声の作品である。「小」フーガなのは，「フーガ Fugha」と呼ぶにはやや小規模で，完全なフーガの形式を成していないため「Fughetta（小フーガ)」としたとされている。しかし，四声体が生徒にとって身近な「混声四部合唱」に通じることや，主題がほぼ完全な形で各声部に現れること，主題に対する他の声部の動きがわかりやすいことなど，教材としてふさわしい特徴を備えている楽曲であり，それらを活かせるような授業を展開したい。

ただし，生徒の実態や今までの学習の系統性を考えると，フーガという形式そのものを理解するには，難しい点があると考えられる。フーガを教材とした学習では，本来なら，曲の冒頭で主題に対する応答が属調で現れることや，中間部での転調を経て最終的には原調に戻る，といった調性の変化についても扱うことが考えられる。しかし，本題材では，多声的なテクスチュアでつくられた音楽に親しんだり，その学習を今後の鑑賞活動や表現活動に活かしたりして，より豊かな音楽活動につなげていくことをねらいとしている。そのため，

・全ての声部に主題がほぼ均等に現れる
・主題は形を変化させることがほとんどない
・一つの声部に主題が現れるときには，他の声部は全く違った動きをしている
・各声部の独立性が強く，和声的なテクスチュアは最後のカデンツァ以外はほとんど見られない。
・各声部がからみあうように曲が進んでいくので，偶発的に「ハモる」にすぎない。

などのフーガの特徴には気づかせたいが，これ以上の専門的な知識の学習については，生徒の実際の反応に配慮しながら進めていくようにしたい。

また，本題材は，２年次になって初めての鑑賞領域の学習となる。１年次では，「四季」より「春」や「魔王」など，標題をもち，音楽の諸要素の働きと曲想や具体的なイメージとを関連づけて考えやすい教材を扱うことが多かった。それに比べ，本教材は絶対音楽である上に，理論的・抽象的な要素がやや強く，理解しにくい点があることは否めない。和声的なテクスチュアをもつ音楽と多声的なテクスチュアをもつ音楽があるということを理解し，その違いを聞き分けられたり，それらのよさやおもしろさを感じとったり，その特徴を活かして表現が工夫できたりするような活動につなげられるよう，ねらいを明確に絞った授業を展開したい。

3　題材の目標

多声的な音楽を鑑賞する学習を通して，テクスチュアの違いがもたらす全体の響きの特徴を感じ取りながら，そのよさやおもしろさを味わって聴く。

4　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①「小フーガ　ト短調」の音楽を形づくっているテクスチュア，形式，構成や構造と曲想との関わりに関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	①「小フーガ　ト短調」の音楽を形づくっているテクスチュア，形式，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解し，解釈したり価値を考えたりし，根拠をもって批評するなどして，多声的な音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

	②「小フーガ　ト短調」の音楽を形づくっているテクスチュア，型式，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解したり価値を考えたりし，鑑賞している。

5　指導と評価の計画（２時間扱い）

時間	◎ねらい 〇学習内容　・学習活動　☆〔共通事項〕	・教師の働きかけ ◇評価規準【評価方法】
1 本時 (1/2)	◎フーガの鑑賞を通して，テクスチュアの違いがもたらす全体の響きの違いを感じ取りながら聴く。	
	〇多声的な音楽と和声的な音楽の違いを知る。 ・「生命が羽ばたくとき」の「明日から～」の部分と「夕日追いかけて～」の部分のテクスチュアを比較する。 ・多声的なテクスチュアと和声的なテクスチュアの違いに気づく。 ☆テクスチュア	・　拡大譜などを用いて視覚的に構造がわかりやすくなるようにする。 ・　主旋律の声部に対してそれ以外の声部がどのような動きをしているかを示すことでテクスチュアの違いについて気づかせる。
	〇「小フーガ　ト短調」の構造を理解する。 ・多声的なテクスチュアで全曲がつくられていることを確認する。 ・主題に対してそれ以外の声部がどのような動きをしているかを調べる。 ☆テクスチュア　旋律　形式　構成	・　主題を取り上げ，それがどのような表れ方をしているか注目させる。 ・　楽譜を用い，四声部がそれぞれ違う動きをすることで曲が構成されていることを示す。 ◇（関心・意欲・態度－①） 「小フーガ　ト短調」の音楽を形づくっているテクスチュア，形式，構成や構造と曲想との関わりに関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 【観察・発言・ワークシート】
	〇多声的なテクスチュアでつくられた音楽のよさやおもしろさを感じ取る。 ・全曲を通して聴き，多声的な音楽のよさについて考えたり意見交換したりする。 ・ワークシートに自分の考えをまとめる。 ☆テクスチュア　旋律　形式　構成	・　今後，多声的な音楽を聴いたり演奏したりするときにどのようなことに気をつけたいか，理由を含めて書かせるようにする。 ◇（鑑賞の能力－①） 「小フーガ　ト短調」の音楽を形づくっているテクスチュア，形式，構

		成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解し，解釈したり価値を考えたりし，根拠をもって批評するなどして，多声的な音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 【観察・発言・ワークシート】
2	◎「小フーガ　ト短調」の演奏や作曲の背景を理解し，多声的なテクスチュアでつくられた音楽のよさやおもしろさについて考える。	
	○パイプオルガンについて知る。 ・どのような楽器によって演奏されているか予想する。 ・パイプオルガンの演奏の様子や構造について視聴する。 ☆テクスチュア　旋律 ○バッハについて知る。 ・作曲家の生涯や他の作品にふれる。 ○まとめをする。 ・多声的なテクスチュアをもつフーガやその作曲家や演奏の様子を学習したことを振り返る。 ・多声的な音楽のよさやおもしろさなどについて自分なりに解釈して批評文を書く。 ☆テクスチュア　旋律　形式　構成	・　多声的な音楽をどのように演奏しているか考えさせる。 ・　多声的な音楽を一人で演奏することに適した楽器であることを理解させる。 ・　多くの多声的な音楽を残した作曲家であること，後世に多大な影響をもたらした存在であることを伝える。 ◇（鑑賞の能力ー②） 「小フーガ　ト短調」の音楽を形づくっているテクスチュア，型式，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽の特徴をその背景となる文化・歴史と関連付けて理解したり価値を考えたりし，鑑賞している。 【観察・発言・ワークシート】

6　本時の指導　（1／2）

（1）本時の目標

◎フーガの鑑賞を通して，テクスチュアの違いがもたらす全体の響きの違いを感じ取りながら聴く。

（2）本時の展開

過程	時配	学習内容と学習活動	・教師の働きかけ ◇評価　【評価方法】	〔共通事項〕の扱い
導入・めあてをもつ	10	・あいさつと和音の聴き取り 〇テクスチュアの違う音楽があることを知る。 「生命が羽ばたくときのBとCについて，各パートの関係がどうなっているか考えてみましょう。」 ・「生命が羽ばたくとき」をふりかえり， 「あしたから～」と 「夕日～」の音楽の構成が違うことに気づく。 『Bは男声が，主旋律である女声を追いかけている』 『Cは主旋律がソプラノにあって他のパートはそれに音を重ねている』 〇多声的な音楽と和声的名音楽の違いを知る。 「『あしたから～』のような構造の音楽をなんというでしょうか。考えてみましょう。同様に，『夕日～』のような構造の音楽をなんというでしょうか。」 『『夕日～』は和音をつけているから「和」が入るのではないだろうか。』 『『あしたから～』はそれぞれのパートが独立しているから「多」が入るのではないか』 「今から聴く音楽は，どちらのタイプの構造をしていると思いますか。」 『追いかけっこしているから，多	・主旋律がどの声部にあるかを注目させ，他のパートがそれに対してどのような動きをしているかに気づかせるようにする。 ・それぞれの構造の違いをよく理解させる。 やや理論的な内容なので，具体物や演奏などを用いてわかりやすく説明できるよう心がける。	テクスチュア 主旋律とそれ以外の声部の関係について考える。

		声音楽ではないか』 「今日は，このようなタイプの音楽のよさについて考えていきましょう。 「あしたから～」タイプの音楽のよさはどこにあるのだろうか。		
深める	30	○多声音楽の代表的なフーガの特徴を理解する。 ・主題に注目して聴き，その表れ方について考える。 「主題（テーマ）はどのパートに現れますか」 『いろいろなパートにそのままの形ででている』 『４つすべてのパートに均等に現れる。パートは平等な関係だ。』 ・主題に対して，対旋律がどのような動きをしているか考える。 「どこかのパートが主題を演奏しているときは，それ以外のパーパートはどのような動きをしていますか」 『全然違う動きをしている。』 『それぞれ別のことを主張しているようだ』 『それでも全体としてはまとまりを感じる。』 『常にどこかが動いていてめまぐるしいけれど，おもしろい』	・楽譜や実演を通して，多声音楽の構造やそこから生み出される響きのおもしろさについて気づかせるようにする。 ◇（関心・意欲・態度－①） 「小フーガ　ト短調」の音楽を形づくっているテクスチュア，形式，構成や構造と曲想との関わりに関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 【観察・発言・ワークシート】	テクスチュア 多声的な音楽 旋律 主題と対旋律の構造の対称性 形式 フーガ 構成 主題の反復と応答
ふりかえり	10	○本時のまとめ ・多声音楽のよさやおもしろさについてワークシートにまとめる。 「このような音楽をこれから演奏したり聴いたりするときの楽しみ方について考えてみましょう」 『多声音楽だと気づけたら，それぞれのパートのからみあいに注目してみたい』 『合唱している歌が多声的だと	・記入に困難さを覚える生徒について，補助発問などを行い思考の支援をする。 ◇（鑑賞の能力－①） 「小フーガ　ト短調」の音楽を形づくっているテクスチュア，形式，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのか	テクスチュア 多声的な音楽 和声的な音楽

		気づいたら，他のパートの動き方にも関心をもってみたい』 『多声的な曲を聴くときには，全体の響きを意識して，そのダイナミックな音の変化を楽しみたい。』	かわりを理解し，解釈したり価値を考えたりし，根拠をもって批評するなどして，多声的な音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 【観察・発言・ワークシート】	

（３）板書計画

学習課題：「明日から～」タイプの音楽のよさはどこにあるのだろうか。

「小フーガ　ト短調」バッハ作曲
＝多声音楽の代表的な形式

今日のひとこと：

多声音楽・・・主旋律に対して他の声部は
「明日から～」　「対立する」
和声音楽・・・主旋律に対して他の声部は
「夕日～」　「ハモる」
（違う音で同時に重なる。）
（和音をつける）

「小フーガ　ト短調」の特徴
・声部（パート）は４つ
・主題が各声部に出てくる（平等）
・主題の形は変わらない。
・主題がひとつの声部に出ると，それ以外の声部は対立した動きをする。

（４）本時の評価と教師の働きかけ

「十分満足できる」状況（A）と判断される生徒の学習状況
・多声的な音楽の構造を理解した上で，各声部が対立するようすや全体の響きのおもしろさを感じ取り，的確な言葉で表現することができる。
「努力を要する」状況と思われる生徒への指導の手立てや働きかけ
・旋律の動きや各声部の対立のようすを具体物や歌唱で例示し，その構造を理解できるように支援する。 ・多声的な音楽のよさやおもしろさを感じ取って自分なりに表現できるように，自分が歌っているときに他のパートが全然違ったメロディを歌うと，どう思う？などと，理解しやすい補助発問を行い，生徒の発言を引き出せるようにする。